

立教大学日本学研究所主催 第57回研究例会

前近代東アジアにおける術数文化の伝播・展開 —日本と朝鮮半島を中心として—



「術数」とは古代中国で成立した陰陽・五行の数理に基づく吉凶判断であり、前近代を通じて東アジアの国々に広く伝播し、それぞれの社会に深く浸透してゆくことで、それぞれの民族文化の形成にも強い影響を与えた。しかしながら、主に議論されるのは中国での形成・展開の問題であり、「術数文化」の諸国・諸地域への伝播・展開について論じられることはさほど多くはない。そのため、本例会では、このような「術数文化」を文化交流史・比較文化史の観点から検討し、日本や朝鮮半島への伝播・展開の諸相を明らかにする議論の手がかりとしたい。さらには広く「術数文化とは何か」を考える契機としていきたい。

演題・講師

「新羅海賊」と国家を鎮護する神・仏

……高麗大学校師範大学歴史教育科助教授 鄭 淳一

「江戸初期の寺社建築空間における説話画の展開—二十四孝図を中心に—」

……東京大学東洋文化研究所・日本学術振興会 RPD 宇野瑞木

「獣頭の鳳凰「吉利・富貴」について—日中韓の祥瑞関連史料を手がかりに—」

……二松学舎大学文学部国文学科専任講師 松浦史子

総合司会・コーディネーター……立教大学文学部教授・日本学研究所所員 鈴木 彰

司会・趣旨説明……藤女子大学文学部准教授・立教大学日本学研究所所員 水口幹記

日 時

2016年10月22日(土) 14:00～17:30

会 場

立教大学池袋キャンパス 5号館 5124教室

【対象】 学生、大学院生、教職員、一般

【主催・問合せ】 立教大学日本学研究所 (nihongaku@rikkyo.ac.jp)

【共催】 日本学術振興会科学研究費基盤研究(B)(一般)「前近代東アジアにおける術数文化の形成と伝播・展開に関する学際的研究」(課題番号16H03466 研究代表者:水口幹記)

予約不要
参加費無料